

佳作

楽しむことで得られるもの

山形県天童市立第四中学校

3年 加藤 星奈

小学1年生の頃、私は初めて飛行機に乗りました。不安と緊張でいっぱいだった私に声をかけてくれたのはキャビンアテンダントのお姉さんでした。そわそわしている私を見て優しい言葉をかけてくれたり、おもちゃやお菓子をくれて、初めての空の旅をととても思い出に残るものにしてくれました。小さい子どもから年配の方までに笑顔で接している彼女にととても憧れました。誰かに憧れたのはこれが初めてでした。自分もみんなに笑顔を届けられるような人になりたいと思い、憧れのキャビンアテンダントという職業を目指し始めました。

中学3年生の今、私にはとても打ちこめるものがあります。それは放送をすることです。私は学校で広報委員長を務めています。毎日お昼の放送を全校生に伝わりやすいよう内容を考えたり、新聞を教室まで運んだりするなど忙しい日々ですがとても充実しています。自分の声を全校生の元へ届けられることがとてもうれしく感じています。放送に出会った時、キャビンアテンダントを見た時と同じようなときめきを感じました。放送をする時には丁寧に伝えようと気をつけていますが、時には早口になってしまったり囁んでしまうこともあります。その時は頑張ろうと思った分だけ落ち込んでしまいましたが、今回出た反省を次に生かそう、次また頑張ろうと前向きに考えるようにしています。そう思えるようになったのは、論語の一節との出会いでした。

委員長に就任したばかりの頃、放送では明るく、伝わりやすくということを常に意識して原稿を読んでいました。私は1年生、2年生と広報委員として活動をしていたので放送の経験はありました。やはり自分の声が全校生の元へ届くことをとてもうれしく思い、日々の活動に楽しく取り組んでいました。ところが、3年生になり委員長という重圧から、マイクに向かって話すことが今までよりもずっと緊張するようになっていたことに気づきました。「囁んだらどうしよう、失敗したらどうしよう。」と、マイクを前にすると委員長というプレッシャーの方が強くなってしまいました。そんな暗い気持ちを変えてくれたのが、国語の授業で学習をした論語でした。

「子曰く、之を知る者は之を好む者に如かず。之を好む者は之を楽しむ者に如かず」物事を理解している人は、知識があるけれどそのことを好きな人にはかなわない。あることを好きな人は、それを楽しんでいる人には及ばないものであるという意味です。この言葉を知った時、自分が放送をする姿や経験と重な

りました。私は、1年生から所属している広報委員の経験から放送についての知識はありました。自分の声を全校生に伝えられるということがうれしく、放送が大好きでした。しかし、いくら放送が好きでも、心から放送を楽しんでいる人には及ばない。この時、私は放送をすることが好きで始めたのに今は心から楽しめていなかったことに気付きました。初心にかえって改めて放送をしてみると、今までの気持ちがよみがえってきました。たとえ失敗したとしても、次に同じ失敗を繰り返さないようにまた頑張ろう、楽しみながら挑戦しようと思前向きに考えられるようになりました。そして何より、自分のマインドが変わったことによってマイクに向かって話すことが以前よりもずっとずっと楽しくなりました。

物事を思いっきり楽しむことでやる気があふれ、何かを始める原動力になると思います。時代を超えて私に響いた孔子の言葉から一番大切なことに気づかされ、そして学ぶことができました。今までの中学校生活を振り返ってみて、放送と関わったことでとても良い経験をしていると実感しました。放送を通して学んだこと、何より誰でも感じたことのあるプレッシャーや重圧などに打ち勝つのは自分の「心から楽しんで取り組むマインド」だということ、これを将来にも生かしていきたいと思います。将来キャビンアテンダントになる夢をかなえ、自分が小さい頃に飛行機の中で出会ったお姉さんが不安な私に優しく声をかけてくれたことをいつか自分が誰かに返したい、お世話になった先生方や友達、大好きな家族に最高の空の旅をプレゼントしたいと心から強く思います。今を楽しむことで、今まで以上に目の前が明るくなり、今まで以上に笑顔に溢れる毎日を送れることを学びました。これから私はどんなにつらいことや大変なことがあったとしても「之を知る者は之を好む者に如かず。之を好む者は之を楽しむ者に如かず」この言葉を胸に、自分が打ち込めるものがあることに誇りを持ちながら、楽しみながら挑戦し続けていきたいと思っています。